

平成25年8月21日

第5回文京区基本構想推進区民協議会の資料の内容にかかわる質問及び意見

区民委員 小林 博

1 子育て支援

- (1) 資料第10号p2【目標値の考え方】に「保育計画」とありますが、保育計画とはどのようなものですか。資料第6号p1③子育てと仕事の両立支援の課題欄や●中項目全体の成果・課題の欄、6今後の方向性の欄にも「保育計画」と言う文言が同様にあります。
- (2) 資料第10号p3【指標の設定理由】○幼稚園 に記述されている「学校評価における・・・」と【目標値の考え方】○幼稚園 に記述されている「保護者アンケート」とは同じものですか。同じものであれば誤解を防ぐ意味で、表現を統一した方がよいと思います。異なるものであれば、どのようなかわりがあるのですか。

2 教育

- (1) 資料第10号p5に示された指標に、国語・算数（数学）の理解度とありますが、授業理解度ではないでしょうか。

その授業理解度の意味が、資料第10号p6【目標値の考え方】の欄に示されています。ここには「全国学力・学習状況調査」のうち、いわゆる意識調査の結果を取り上げていますが、これは、単なる児童生徒の個々の感想であり、指導要録における観点別学習状況の評価の観点にある「知識・理解」とは異なり、理解度として扱うにあたってはあいまいです。資料第10号p5【指標の設定理由】にある「知」の成果指標として、児童生徒の授業理解度を上げるならば、授業後にその都度、知識・理解にかかわるテスト形式の質問紙による調査を行い、教員が行った授業そのものが理解できたという説得力のある結果を示さなければ、本来の授業理解にはならないと考えます。

資料第6号p2 ①授業理解度【小学校】24年度は、実績値が22年度と比べて下がってしまっています。授業改善プランの修正・作成、区費による非常勤講師の配置を行い、指導方法の工夫改善を進めたにもかかわらず、授業理解度が下がってしまった原因をどのように分析したのでしょうか。

- (2) 資料第10号p6に示された指標に、反復横跳び（敏捷性）とありますが、それを高め

るために、具体的にどのような取り組みをするのでしょうか。例えば、体育の授業の始めに、反復横とびを毎回取り入れるなどです。

- (3) 資料第10号p8【目標値の考え方】【小学校】に、平成28年度までに都の22、23年度の平均値を目指します、とありますが、5～6年後に都に追いつくのでは、遅いのではないのでしょうか。【中学校】では、現状維持とありますが、国や都を下回ったからよいのではなく、少しでも減らす方向に努力すべきではないのでしょうか。資料第10号p7【指標の設定理由】に、不登校の問題は「生きる力」の育成の上で重要な課題と認識されていることが示されています。そうであるならば、不登校児童生徒の解消に積極的な取り組みをする必要があるのではないのでしょうか。

資料第6号p2③【課題】の欄に、小学校低学年の出現率が高くなっている、とあります。低学年といえば、義務教育9年間の学校生活を始めたばかりで、不登校になる原因として、学校生活での状況というよりも家庭生活や子育ての状況によるものが強いと考えられます。家庭支援や子育て支援の部署と十分な連携が必要であると考えます。

- (4) 資料第10号p8の指標に示されている「人の役に立つ人間になりたいと思う」児童・生徒を増やすには、具体的にどのような取り組みをするのでしょうか。例えば、道徳の授業を年間指導計画にしたがって、徹底して確実に実施するなどです。

3 青少年の健全育成

- (1) 資料第10号p10【指標の設定理由】に示された文章は、文京区基本構想実施計画平成23年度～平成25年度のp46 062「文京区社会を明るくする運動」の項目に書かれた文章と同じです。文京区社会を明るくする運動推進委員会は設置されているのでしょうか。平成23年度以降まだ設置されていなく、これから設置するのでしょうか。
- (2) 資料第10号p11【目標値の考え方】の欄に、「区立小学校PTAの協力」とありますが、地域活動団体などの多くの方々の協力が必要であると考えます。
- (3) 資料第10号p11の指標に示されている〈仮称〉「青少年プラザ」とありますが、どのようなところなのですか。具体的にはどんな活動をする施設なのでしょうか。懸念されることとして、例えば、ゲームセンターやカラオケで遊んでいるような若者達が場所を青少年プラザに移して、楽器を演奏したりダンスをしたり、好きなことを自由に行うことができる場所なのでしょうか。